

クラス	Q310	担当教員	吉原 智恵子
テーマ	人間関係に関する諸問題		
著書・論文 研究課題等	〈著書〉「現代社会を社会心理学で読む」ナカニシヤ出版（2009）永田良昭・飛田操（編）（第4章 認知的な矛盾の統合における他者との関係の意義 p. 49-64），「自己心理学 社会心理学へのアプローチ」金子書房（2008）下斗米淳（編）（第7章 社会的文脈における自己概念の変容と動機づけ p. 123-133）他 〈論文〉「世間」のものの見方の共通認識と認識源に関する予備的研究 ―世間―のものの見方は確かに共有化されているか？「世間」の認識源はどこにあるのか？― 日本福祉大学研究紀要 現代と文化,124,99-112.(2011) 他 〈研究課題〉認知的葛藤の処理に伴う認知的枠組みの変容に関する研究		
ゼミナール概要			
キーワード：対人関係，社会的行動，社会的認知，集団			
〔目的、内容、方法〕 人間関係にかかわる諸問題を研究テーマとしてとりあげ，3年次は卒業研究の研究計画立案までを行うことを学習目標とする。可能な人は予備調査や第一研究の実施まで遂行する。4年次には調査・実験を実施し，大学での学びの集大成としての卒業論文を完成させる。また，授業はプレゼンテーションやディスカッションを基本とし，レジュメの作成法やプレゼンテーション技術を磨くことも目指す。卒業研究を遂行する研究活動と，その他さまざまなゼミ活動の全過程を通して社会人となる基礎を養っていく。 〔授業の進行プラン〕 3年次前期に全員で社会心理学のテキストを読んで内容を発表しあい，議論することを通して基礎的な知識を養う。後期は各自が卒業研究のテーマを設定するための関連論文を選定し，その内容を発表する。その上で全体討論を行い，研究計画立案の土台を築き，研究計画を完成させる。可能な人は予備調査や第一研究を実施する。4年次前期は調査・実験等によるデータ収集を行い，後期はデータ処理や結果・考察のまとめと卒業論文の執筆を行う。 〔これまでの卒業研究の主なキーワード〕 母子関係，父子関係，友人関係，教師と生徒の関係，いじめ，孤独感，自尊感情，コミュニケーション，ソーシャル・サポート，ストレス・コーピング，障碍，育児，リーダーシップ，ジェンダー，対人距離，流行，自己開示，自己愛，同調行動等（過去の卒業研究テーマリストを閲覧したい人は申し出てください。）。調査，実験，面接，観察等によるデータ収集に基づく研究を原則とする。			
担当教員からのメッセージ			
原則としてデータ収集に基づく実証的な研究論文を作成する。そのため「心理学実験・実習」，「心理学研究法演習」および「心理データ処理演習」を履修していることが望ましい。数年後に社会人になることを意識して，ゼミ活動は主体的，積極的に取り組んでほしい。また，ダメ出しにもめげない「打たれ強さ」を期待する。これは卒業研究遂行過程で（もちろん人生においても）求められることである。			